

本年度の重点	1	学級・学年の枠を越えた創造的な教育活動の展開
目標（評価規準）	子どもが、子どもの思いを、子どもの言葉で、子どもに向かって話している。	
重点に係る現状 設定理由	これまでの教育活動の成果の上に立ち、次年度から実施される新学習指導要領の理念である学びの三要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性」の育成を視野に入れ、「主体的、対話的で、深い学び」を実現できる子どもの姿を追求する必要がある。また、基礎基本を重視し、家庭学習の充実も図っていく。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	<p>項目1～4:学習</p> <p>1. 高学年の教科指導等の連携はとれていたが、低・中学年では授業面での連携が不十分だった。</p> <p>2. 基礎学力の定着のため、低学年においてはモジュール学習、中・高学年においては「算ノート」(基礎計算)の取り組みの充実を図った。</p> <p>3. 「認め合い・高め合い」を意識した授業の実施を心がけた。</p> <p>項目5～8:児童指導・安全</p> <p>基本的な生活習慣の維持や規範意識の高揚、いじめ予防のためのよりよい人間関係の構築、安心安全な学習活動の保障に努めた。また、積極的に児童に働きかけ、信頼関係の構築に努めた。</p>
各アンケート等の結果	<p>○複数学年による合同授業や異学年担任による交換授業については、昨年度同様、児童、保護者評価とも高評価である。児童の学習意欲の向上に結び付いている。</p> <p>○家庭学習については教職員間の共通理解を図ったきたが、児童への指導、及び、保護者への説明が不足していた。</p> <p>○教職員アンケートと児童アンケートの比較から、話し合い活動については改善の余地が十分あることが分かった。</p> <p>○アンケート6の項目の保護者評価から、児童からの話を十分に聞き、保護者に丁寧に伝えていく必要を感じた。また、教職員間の情報交換を密にしていかなければならないことも分かった。</p>
自己評価結果 （見解と改善方策）	<p>各アンケートを通じて小規模校の強みを生かした教育活動は効果があると認められる。この評価結果を生かし、児童の学力向上、よりよい人間関係の構築を目指し、以下の点を次年度へ向けての方策する。</p> <p>○技能教科において学習指導要領の目標を踏まえながら、2年間を見通した複数学年による合同授業、また、多面的な児童理解も含め、教科担任制を意図した異学年担任による交換授業の実施を進める。</p> <p>○授業時数の増加への対応は、モジュール学習と6校時追加の併用を採用し、児童の負担にならないようにする。</p> <p>○基礎・基本の定着については引き続き検討を要する。特に、語彙の増加を目指したい。語彙を獲得する過程で、読み続ける、書き続ける、考え続けるというような学習体力、学習持久力の向上を図る。</p> <p>○話し合い活動の充実には引き続き教職員の研修を図っていく。視点、観点を明確にした授業研究や、外部講師の招聘、各種研究会への職員派遣を通して授業力の向上を目指す。</p> <p>○アンケート項目6については、児童の実態を的確に把握しながら、児童指導も織り込んだ授業を実施していく。また、職員会議等でこれまで以上に教職員間の情報交換を充実させていく。</p>
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着は学習の土台になる。引き続き丁寧な取り組みをお願いしたい。 ・児童数の減少に伴い教職員数も減っている。分掌等負担になることもあるだろうが、今後も子どもたちに寄り添い、一人ひとりにあった教育活動を期待する。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・計算力の向上と語彙の増加を目指す。国語を中心とした教科学習、モジュール学習や夏みかんタイム、家庭学習の工夫などで改善を図っていく。 ・「主体で・対話的・深い学び」の追求、学習評価の改善のため学校研究を通して教職員の授業力向上を図っていきたい。 ・学習指導要領の各教科の目標を踏まえながら、2学年を見通した複数学年の合同授業を試行する。 ・児童間のよりよい人間関係の構築のため、総括教諭を中心とし、児童の実態について職員間の共通理解を図っていく。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	地域とともにある学校づくりの推進
目標（評価規準）	保護者、地域と協働しながら教育活動を進めている。	
重点に係る現状 設定理由	三崎にある素材、人材を活用しきれていない。また、2022年度、三崎小学校は開校150年を迎える。教材化できる素材、外部講師としての人材を効果的に教育活動に生かしながら、地域に愛され、地域とともに歩んだ150年ということを児童に実感してほしい。そのためには、地域学習が不可欠である。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	<p>項目9～12:保護者・地域連携</p> <p>9. 学級通信では子どもたちの学級生活の様子を保護者に発信している。写真や児童のノートの写しも内容に入れ具体的な学習内容や学習方法を周知することができた。学校だよりでは、学校の経営方針、学校長の意図、行事予定や児童の活躍等を広くお知らせした。また、学区の区長にも配布し、学校の取り組みを知ってもらうことができた。</p> <p>12. 校外学習を実施することで児童の取り組みを知ってもらうだけでなく、顔を覚えてもらうことで防犯にもつながったが、地域素材の教材化については不十分さを感じている。</p> <p>・クラブ活動では昨年同様、地域の指導者に協力いただいた。</p>
各アンケート等の結果	<p>9. 「写真やノートの写しがある学級通信なので学習の様子がわかりやすい」「学級通信が予定表だけで、学習の様子がわからない」両極端な意見があった。</p> <p>10. 授業参観や保護者会などの設定期日や持ち方、内容については再考の余地があることが分かった。</p>
自己評価結果 （見解と改善方策）	<p>学級通信や学校だよりなどで情報発信、家庭訪問や保護者会などで保護者との情報交換、共通理解に努めてきたが、改善のため以下の点を次年度へ向けての方策とする。</p> <p>○毎週末の学級通信を負担に感じている職員もいる。学習予定については先を見通しながら学習用具の準備も含めお知らせしていかなければならないが、学級担任の意図や学習の様子などを周知するタイミングは各担任の判断に任せる。</p> <p>○今年度は全校保護者会を設定し、教育目標や指導方針を説明した。さらに、保護者会、個人面談、土曜授業参観など、顔が見える時に学校の取り組みを説明する機会を多く設定していく。</p> <p>○児童数の減少、見守り隊の高齢化で今後の見守り活動を再検討していかなければならない。ラジオ体操は地域と子どもたちとのふれあいの場としての意味もある。今後も継続していきたい。運動会や6年生を送る会への招待など、地域の方が学校へ足を運ぶ、児童と接する機会を増やしていく。</p> <p>○三崎は素材、人材の宝庫である。開校150年にむけて地域素材の教材化や単元化、また、地域人材を学習活動やクラブ活動などに活用することで、地域に根差した学校、地域に開かれた学校、地域に愛される学校づくりを進めていきたい。</p>
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信は家庭、地域の協力姿勢、体制に直結する。教職員の働き方改革も視野に入れ、積極的な情報発信を心がけてほしい。 ・周年行事を活用し、地域との結びつきの強化を目指してほしい。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域が必要とする情報を職員間で共通理解し、幅広い情報発信に努める。 ・地域のコミュニティとしての学校を目指し、外部講師の積極的な活用、地域素材の教材化、地域との交流の活性化、PTAの運営体制の見直しなど、家庭、地域との連携を強化していく。 ・150周年行事の成功に向け、実行委員会の立ち上げ、事業内容の検討など地域との結びつきを強化していきたい。